

川俣駅東口医療・福祉の拠点づくり始まる！

9月23日、川俣駅東口医療・保健センター複合施設の起工式が河本工業(株)様の主催にて行われました。衆議院議員の笹川ひろよし様ほか3名の方々にご臨席いただき、医療機関の皆様方12名、区長会長様ら地元区長の皆様4名、工事関係者の皆様、議長をはじめとする議会議員の皆様12名、町長以下町関係者11名、施主である(株)邑楽館林まちづくり小野^{おの} ^{ひろむ}弘社長以下8名を含めた総勢60名の皆様が勢揃いいたしました。



【起工式の模様】

今回の医療・保健センター複合施設は、国の立地適正化(コンパクトシティ)構想の国庫補助金を活用しながら「明和町」と「(株)邑楽館林まちづくり」と

「明和町土地開発公社」、そして本事業を実施するにあたりプロポーザルによって選定された民間企業の「河本工業(株)様」の4者におけるPFI(※注)として実施されるものでございます。このPFIの導入によって、事業コストの削減だけではなく、より質の高い公共サービスの提供が期待されます。

今回の建設工事は、まず国の補助金を活用し、駅舎2階改札口から地上に降りることなく、施設へ直接アクセスできるように「ペDESTリアンデッキ」を作ります。2年前大澤知事のもとを訪問した際、「明和町長、ペDESTリアンデッキは群馬県でも高崎駅にしか無いのだぞ！それを明和町が作るって言うのかい？」と笑って言われました。そのペDESTリアンデッキを、国の補助金を活用し町が作ります。その先に複合施設として保健センターが移転いたします。



【駅東口 医療・保健センター 鳥瞰図】

この保健センターは、建替えるための補助は通常ありませんが、明和町は立地適正化（コンパクトシティ）構想の国庫補助金の活用により保健センターが建替えられることとなります。その保健センターと複合化する施設が病院及び小児科クリニック、院外薬局等です。

その病院は「(仮称) 明和中央病院」として、海宝病院が移転をしてきます。小児科クリニックは「(仮称) 明和赤ちゃんこどもクリニック」として、太田市から草野先生がまいります。院外薬局は「第一調剤薬局」が来られます。

また、前年の台風19号が襲来の折、明和町で初めて避難指示を出した経験から、区長の皆様より「町が公共施設を建てる場合には、避難場所の確保をしてほしい」と要望を受けておりました。そこで、建物の一部を3階建てとして、明和町土地開発公社の事務所を兼ねた避難施設を確保できるようにいたしました。

今回の川俣駅東口において医療・保健センター複合施設の建設がスタートし



まして、来年10月の竣工を予定しております。川俣駅西口の温泉施設とビジネスホテル、また商業施設はその後、1年遅れ位の日程でございます。

【東口 西側エントランス】

明和町の移住、定住の安全安心拠点の医療と温泉とビジネスホテルが駅前に出来ることで、明和町のランクが一段と上がると思います。

また、今回の病院の進出により将来、介護の医療現場である、介護医療院も視野に入ってまいりました。今後、65歳以上の高齢者数は、2042年にピークを迎えると予測されており、より効率的に介護サービスを行ううえで、介護医療院の併設には期待がもてます。介護保険でベッドを増やし医療も行える介護医療院も設置できれば、明和町の医療・福祉は益々充実してまいります。

今回の工事が完成まで、無事行われますようご祈念申し上げます。夢は益々膨らんでまいります。これからの明和町の医療と福祉が益々発展することをお約束申し上げます。

(※注) P F I とは「プライベート・ファイナンス・イニシアティブ」の略で、「民間資金活用事業」のこと。国の P F I 法に基づき、民間の資金とノウハウを活用して、公共施設等の設計および建設や維持管理および運営を行う手法。

令和2年9月30日

明和町長 富塚もとすけ